

会議名 (審議会等名)	令和3年度第1回川西市子ども・子育て会議		
事務局 (担当課)	川西市教育委員会 こども未来部 こども支援課 内線(3442)		
開催日時	令和3年7月13日(火) 14:00~16:00		
開催場所	ハイブリッド方式(消防本部3階大会議室、Zoom)		
出席者	委員	(会長) 農野寛治会長 (委員) 中橋委員、白石委員、佐々木委員、豊國委員、森友委員、石田委員、加茂委員、金山委員、 岩永委員、前川委員、中江委員、青木委員	
	事務局	こども未来部長 山元昇 副部長 釜本雅之 教育推進部副部長 岩脇茂樹(オンライン) こども未来部こども支援課長 井上昌子 入園所担当課長 橋川貴夫 留守家庭児童育成クラブ担当課長 井関大悟 こども・若者相談センター所長 木山道夫 こども未来部 こども支援課主任 窪田裕一 上野裕也	
傍聴の可否	<input checked="" type="radio"/> 可	不可・一部不可	傍聴者数 6人
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
会議次第	議事 (1) 教育・保育施設等及び留守家庭児童育成クラブの実績について (2) 新子育て安心プラン実施計画に基づく量の見込み等について (3) 川西北こども園の園区の設定について (4) 川西市子ども・子育て計画と川西市子ども・若者育成支援計画の統合等について て (5) その他		
会議結果	(1) 教育・保育施設等及び留守家庭児童育成クラブの実績について 報告 (2) 新子育て安心プラン実施計画に基づく量の見込み等について 報告 (3) 川西北こども園の園区の設定について 承認 (4) 川西市子ども・子育て計画と川西市子ども・若者育成支援計画の統合等について 承認		

審 議 経 過 (要 旨)

1. 開会 (10:00)

(事務局)

事務局のあいさつ、通信及び欠席者の確認、新任委員の紹介。

(事務局)

(1) 教育・保育施設等及び留守家庭児童育成クラブの状況について説明

(会長)

ただいまの事務局の説明に対し、何かご質問ございますでしょうか。

(委員)

川西北小学校の夏休み中のみの特別開所のことについてお聞きします。23名申し込まれていますが、学年としては何年生が多いでしょうか。

(事務局)

学年としては、3年生、4年生が大半です。通年入所については、低学年から優先的に入所になるので、入所できなかった方が夏季の特別開所を利用しているので3、4年生が中心になっていると思います。

(委員)

もともとフルタイムで就業されている保護者ではなく、パートタイマーで普段は学童の必要はないが、夏休みだから利用したいと思っている保護者はいますか。

(事務局)

夏休みの開所については、午後3時以降まで勤務されている方、週3日以上留守家庭児童育成クラブに通うことができる方などを対象にしています。

(委員)

通常開所されているところに入れなかったお子様の受け皿というイメージでしょうか。

(事務局)

はい、その通りでございます。

(委員)

はい、わかりました。ありがとうございます。

(会長)

他の委員の皆様、いかがでしょうか。

質問、意見なし

(事務局)

(2) 新子育て安心プラン実施計画に基づく量の見込等について説明

(会長)

ただいまの事務局の説明に対し、何かご質問ございますでしょうか。

(委員)

2点質問があります。1点目は、量の確保というところで、3号認定の子どもの動きを見ていると、0歳は利用者が減っている現状があります。これはコロナ禍や、育休の利用ということもあり減っているのかなと思います。反対に1,2歳児は増えています。その中で3号認定の0歳と1,2歳のバランスについてはどんな風にお考えになりますか。0歳の運営費が一番高いので0歳が減っていくということは、園を運営する費用が減ることになると思います。年度途中に入ってくる子ども達のことを考えると、保育士や保育教諭の採用は、人数を減らすわけにはいきません。そうすると質との絡みといいますか、子どもの安全・安心をしっかりとできるような職員配置や教材の豊かさが難しくなったりすると困るなどと思います。定員の確保のところ、0歳や1,2歳の量だけの確保ではなく質の確保についての見通しを教えてくださいたいです。

2点目は、幼稚園を希望されている方もある程度いると思います。その方たちへの保育所、幼稚園、こども園という枠組みではない川西市全体の保育の質を確保する見通しや方向性があれば教えてくださいたいです。

(事務局)

ご指摘いただきました保育の質の確保については重要なテーマとして、市の方でも認識しており取り組みを進めてきたところでございます。特に1号認定の子どもたちが、市立幼稚園のなかで減少しているという状況です。現場の先生方は、少ない人数の中でしっかりと教育に取り組んでいただいております。やはり、幼児期の教育のことを考えると、一定の集団規模を確保する必要があるということもありますので、人数のバランスをどのようにとっていくのかが一つ課題になると認識しています。合わせて、人数が減っているということではありますが、しっかりと職員の方は人数を確保させていただいたうえで、教育にかかる取り組みを進めていきたいと考えています。コロナ禍で実施は難しいですが、研修を通じて先生方の資質の向上に努めていきたいと考えています。

(委員)

研修や職員の確保、子どもたちの集団のあり方などはしっかりと検討いただきたいと思います。

(会長)

子どもの教育施設は、どこに子どもがいてどこに存在しているかという空間的なものと、時間的な時間軸というものがあります。子どもの年度途中の入所の変動・動向がどういう風な状況なのかといったことや、そこで保育士を確保しておられるのか、そういったことを現場の方にお伺いしたいです。

(委員)

私のところで言いますと、0,1,2歳を受け入れている施設が3か所あります。0歳は育休の問題で途中の入所が若干ありますが、1,2歳の変動はほとんどありません。

(会長)

変動はなく年度の当初の目処は立っている状況で始まるということですね。

(委員)

私の施設は、0歳の利用はもともと少なく定員を3名にしています。職員は部屋に常に2名いるように配置しています。1歳児は昨年と比べて今年度はバラバラで全然増えないが、保育士は確保しています。各クラスフルタイムで雇用しています。あとは、週3日～4日のパートを確保しています。もっと働きたいとの声があるが、このような状況なので少なめにしています。しかし、何とか元に戻したいと思っています。皆さんがフルタイムで出てくると採算が合わなくなってしまう現状です。

(委員)

0歳が今年度少なくて民間保育園、認定こども園も0歳児枠がどこの園も定員を満たしていないが、定員があるので、職員を減らすことができないのでとても苦しいです。例年なら途中で0歳児枠の入園がある傾向があったので、途中で入園してくることがあるかと考えていましたが、今年度は入園する気配もありません。園長会でも1年かけて定員を満たすことができるのかという話が出ています。1歳は途中で人数が増えることはほとんどありません。0歳児が1歳になって入園したいということでだんだんと定員が満たされていくという形でしたが、今年度は7月に入っても定員を満たさない園が多いが職員は減らすことができません。定員数を減らすのは難しいというところですので民間保育園、認定こども園も悩ましい状況です。その中で、私立の幼稚園を認定こども園にする募集があるが、なかなか皆さん手を挙げておらず、今回もなかったということですが、これだけ定員が足りている状況で認定こども園を募集する意義といますか、0,1,2歳の利用が落ち着いている中で幼稚園を認定こども園に移行する理由を教えてください。

(委員)

厚労省側の意向もあると思いますが、長時間預かるということとか、集団の大きさというところを徹底していくような方向で考えていってほしいと思います。保護者の方の子育ての意識も大事だと思うので、働き方も含めて、子育てが楽しく自分が子育てをしたいというような施設をきちんと作っていく、先ほど会長がおっしゃっていましたが、場の設定や子どもがどこにいるかということも重要なと思います。川西市の中で場をどのように作っていくのか、単に2号の場所を作るのではなく、子育ての場というものを作っていってほしいです。

(会長)

かねてから幼稚園は4時間、保育園は8時間。子どもにとって何時間の保育時間が適正なのか、教育時間が適正なのか、というものを引き継ぎながらこども園を構想したと思いますが、幼児教育の中身のあり方、今後どういう教育をしていくのか、そのためにどのくらいの時間を必要とするのか。もう一つは、暮らしの部分で、子どもの暮らしの何をどうするのかということについて、子どもの視点に立って考える必要があるかなと思います。今は働く女性を社会のなかで活躍していただきたいということでこども園ができていますが、子どもの視点に立って考えることが必要だと思います。

(事務局)

川西北こども園を整備中で、来年4月開園を目指して工事を進めております。市内全体を見渡しましてこ

ちらの園ができると市立のこども園が4施設になるところで、市内の待機児童の解消というところもありますが、今後市内全体で公立のこども園をどのように整備や配置していくかということを経済局側で検討を進めています。委員のおっしゃるとおり場所の提供もそうですが、子どもひとりひとりの幼児教育あるいは保育、子どもの目線に立った整備は忘れてはいけないと思っています。そのあたりも見極めながら公立のこども園の整備、民間のこども園の整備というところも考えなければならないと思っています。

(委員)

公立のこども園として、2年目になりました。今年度、0歳が軒並み公立も民間も4月定員割れしている中で、川西こども園は満員でした。たくさん数があればよいのではなく、保護者の方はどこで子育てをしたいかというものがあると思います。公立の幼稚園は地域で育てたいという方が行かせたいと思っているように、保育の方も地域で、家の近くであり自分が仕事に行きやすく、さらに校区の中で育てたいと思う方が多いです。5月から見学の電話がかかってくる。9月から見学会するからと伝えていますが、皆さんご近所なんです。家の近くで、家の近くの子どもと一緒に、たとえ親が働いていてもそこで子育てしたいと思っています。余っているところは確かにあるが、入りたい園に入れているかというところではなく、家の近くの保育園に入れなくて、わざわざ遠い保育園に行かないといけない状態が現実にあります。3歳以上が無償化になりましたから、働きたいお母さんたちも増えていると思います。こども園の場合は2号がすごく入りにくいです。下の子が入れても2号のお子さんが別の保育園に行っている人が何人もいます。2年目になっても園所がばらばらの方が結構います。これから先に施設を考えるときに、個人の意見ですが、子どもを地域で育てたいと思われる方には、地域の人とともに育ていける子育てができるということが大切だと思います。見学に来られている方にどの辺の方ですかと聞くと皆さんご近所なんですよね。本当に入れて上げたいです。だけど私の力では入れることができません。1,2歳も満員で、入りたいとおっしゃられても入れない。他に園はあるので自分のところばかり入れることはできません。地域というものをどう考えていくのかということが今後の課題だと思います。公立の方は0歳定員の分、職員を入れていただいているので、民間は大変だと思うが、必ず秋には、10,11月と増えてきて大変ではあるんですけど、職員は揃えていただいているので回ってはいくが、これから0歳は満員になっていかない時代なのかなと思います。その分1,2歳はすごい競争率だなと思って来年が心配です。

(会長)

国の方では、5歳から教育をするという意見が出ている。地域の中で基礎教育を受けていく方が多いと思う。その中で保護者の方が地域に根差した教育を望んでいるのであれば、幼少期の子どもの居場所については、地域に根差している方がいいのであろうと思います。今後、校区のあり方から考え直す必要があるということかもしれません。

川西市は中央の部分で待機児童が出ているような状況と読み取ってよろしいでしょうか。その時に、地域からはがしてしまうが、国が推奨していたおうち送迎事業を川西市はやっておられますか。

(事務局)

現状、市立の幼稚園や保育所、こども園につきましては、導入していない状況です。ここ数年、待機児童の地域で言いますと、川西中学校の校区が一番発生しているような状況です。

(会長)

他に質問等はありませんか。

質問、意見なし

(事務局)

(3) 川西北こども園の園区の設定について説明

(会長)

ただいまの事務局の説明に対し、何かご質問ございますでしょうか。

(委員)

180名の各年齢の1.2号の定員を教えてくださいませんか。

(事務局)

1号定員は100名ですけれど、年齢の内訳としましては、5歳児が35人、4歳児が35人、3歳児が30人となっております。続きまして2号認定ですが、全体で45人となっております、5歳児が15人、4歳児が15人、3歳児が15人となっております。3号についてですが、2歳児が13人、1歳児が13人、0歳児が9人となっております。合わせて35名の定員となっております。

(委員)

これだけ子どもの数が減っている現状の中で、川西北幼稚園は、100名の定員に36名という風になっていますが、新しいこども園は、北幼稚園と北保育園の定員を足した人数の設定ですが、180名は埋まるのでしょうか。こども園が定員割れをしている状態、冒頭にも話は出てきましたが、川西市は0歳が、人口減少で、非常に少なくなっているなかで180名の充足率というのはどのように見ておられますか。

(事務局)

おっしゃる通り、少子化等の影響により、定員割れしている現状は把握しています。現時点では、子ども・子育て計画に基づいて整備をしていくという方針で現状の1号100名、2.3号80名ということで整備をしたいと考えていますが、定員割れや1号のニーズの減少というところで、今後におきまして先ほどの協議事項にもござしましたが、入所児童数の動向を見ながら、定員の見直し等も含めて考えていかなければいけないというところは課題として認識しております。

(会長)

園区の現状を拝見しますと、久代地区は園区と小学校区が一致していて、その他の地区は小学校区よりも園区の方が広いということですね。居住地の園区を基本としつつ、市内全域の他園への就園を希望することができる、と書いてありますが、久代地区だけが園区と小学校区が一致していて、その他の地区は、園区があるところもあるし今回のように園区を設定しない地区というところもあるんでしょうか。あるいは、2.3号認定の園区を設定しないというのは、川西北こども園が初めてなのでしょうか。

(事務局)

2.3号につきましては川西市全域で利用調整を行うという方針がございますので、現状2.3号についてはどこの施設についても園区は設定していないというところでございます。

(会長)

川西北保育所は、川西北こども園ができると、出在家町から丸の内町に移っていくということで、距離はあるのでしょうか。

(委員)

1kmも離れていません。

(会長)

小さい子どもと親が歩いて行ける範囲でという理解でよろしいでしょうか。

(委員)

それぐらいで行けると思います。隣り合っている町なので極端には離れていないです。

(委員)

園区の話ですが、小学校ごとに公立幼稚園がないので、久代幼稚園は久代小学校に行けますが、川西こども園は川西小学校区と桜が丘小学校区内の公立幼稚園が廃園となったので、両方の園区を抱えている。明峰小学校区にもないので、川西北こども園は明峰小学校区も抱えるという感じで小学校区をまたいでいるところの幼稚園の園区は多いです。

(委員)

小学校を預かっている身としまして、子どもの定員は小学校も切実な悩みでありまして、私どもの小学校も減少傾向にあります。小学校にも学級の定員がありまして、1.2年生は35人と定員は減っている。クラスの数が減りますと子どもたちの関係づくりという面でやはり難しいところではあります。先ほどの話を聞きながらまさに小学校も考えていけないと思っております。コロナの後、反動といいますかいろいろ問題が出てくると思いながらお話を聞かせていただきました。

(会長)

コロナの影響で、働き方から職場でのことなど揺らいでしまう状況の中でたとえ若い方々が生き生きと働いて、健康に夢を持ち、子どもができ、家庭を持つというプロセスが社会の中でリスクにさらされているような気がします。社会を挙げてどんどん夢のあるものを発信していかなければいけないと思います。

若い方の結婚・子育ての動向や地域の中の子育ての資源がニーズのある所にきちんとあるのかどうかというようにいろいろな課題はあるが、今後の現場の方々の小学校を含めた教育内容の見直し、新たな教育を子どもさんたちと一定の人数の中でどう展開したらよいか。子どもたちの暮らしや学びが充実していけばよいなと思います。ただ、現状を見ていると課題が山積しているわけですが、今回の川西北こども園の定員設定についても、実際1号認定は大丈夫かなと思いますし、他のところとの兼ね合いも気になるころではありますが、子育てしている家族の子どもを見据えて適正に利用定員を運営していただくことを切にお願いします。

(会長)

他に質問等はありませんか。

全委員の承認

(事務局)

(4) 川西市子ども・子育て計画と川西市子ども・若者育成支援計画の統合等について説明

(会長)

ただいまの事務局の説明に対し、何かご質問ございますでしょうか。

(委員)

効率的な行政運営を考えた場合に二つの計画を統合するのは今の時代に即した対応かなと思います。ヤングケアラーやひきこもりの問題というのは青少年の重大な課題だと思いますので、効率的な計画の策定であるとか、具体的な施策の推進に関して、統合することによるメリットというものは十分にあると思いますので積極的に進めていただけたらと思います。

(会長)

もともと次世代育成支援対策推進法などができてくるなかで若者の問題が浮かび上がってきて現在に至っているということですが、統合することによって施策の領域が広がり、連携が図れるとか、その辺はとても素晴らしいことですので是非進めていただきたいなと思います。

もう1点、子ども・若者育成支援推進法のなかに地域のネットワークを作るといふものがあると思います。これは都道府県の関係機関が中心となって構成するような国のデザインだと思います。要保護児童対策地域協議会は市町村の窓口が中心となり地域の様々な資源と都道府県の児童相談所をつなげるような形で、明確にそこに事務所を置きそこが中核となって動かしています。そこ子ども若者ネットワークの中核機関とは同じものであるので、ネットワークの中ではヤングケアラーやひきこもりも一緒だと思います。ネットワークの中で4つのことをやらないといけない。まず、ニーズがあり見つけるということ。誰かが見つけてネットワークの中でつなげて、そしてみんなで見守りながら、そして啓発していく。この4つをネットワークの中でやっていかなければなりません。それをどんな形で作り上げるかというところが一番重要なところではないかなと思います。ネットワークの中でいろんな課題が出てくると思うし、新たなニーズが発見されるかもしれないです。それに対して、いち早くどういう風に動いてそれを一つに作り上げていくかということをやっていないといけないと思います。大事な政策だと思いますので迫力をもっていただけたらと思います。

(委員)

川西市で過ごす子どもたちを長く見通しながらの施策になることが期待できるということで、一つにまとめることがいいと思います。つながりや横と縦の連携がスムーズに動くということが大事かなと思います。1点、長い見通しの中で検討していく中で専門的な知見を持った方たちが話をされるということで、その良さと、会議はある一定の時間というものもあるので、ワーキンググループや分科会のようなものでしっかりと検討する時間も確保していただきたいなと思います。

(委員)

資料1-1ですが民間の学童保育について、民間の充足率というものはどうでしょうか

(事務局)

市内で6クラブあります。定員の方が216人で、登録している児童が156名という状況です。

(会長)

アンケートについて質問です。ひきこもりにかかわらず若者の就労や生活の状況について調査するところに、ヤングケアラーや新たな課題についての質問を検討しますとありますが、何歳ぐらいまでの方を対象としているのか、サンプル数はどのくらいを想定しているかお聞かせいただきたいです。

(事務局)

年齢的には19歳から39歳。前回のものを踏襲する形となっております。サンプル数に関しては今のところどれくらいにするかという具体的な数字はまだ持っておりません。

(会長)

ヤングケアラーは19歳以上でいいのでしょうか。

(委員)

もっと低い年齢だと思います。定義は難しいですが、私どもが相談を受けているのは、小学校低学年や、保育所年長さんが家事をさせられているという事例が実際にあります。ヤングケアラーとして調査を実施するのであればもっと低い年齢に設定しないといけないと思います。

(会長)

年齢が低いということはそれだけ精神的、あるいは子どもの発達に関わるというような年齢でそういうケアラーの役割を担わされて、早ければ早いほど子どものダメージは強いのではないかなと思います。なるべく早いうちから見つけてあげる必要があるのかなと思います。

(会長)

他に質問等はありませんか。

全委員の承認

(5) その他について

(会長)

その他、何かご質問ございますでしょうか。

質問・意見なし

(会長)

これで令和3年度第1回川西市子ども・子育て会議を終わります。司会を事務局にお返しします。

(事務局)

あいさつ

(閉会)